

「家庭総合」学習指導案

日	時	平成 24 年 11 月 15 日(木) 4 限目
場	所	被服室
学	級	2 年進学コース 17 名
使用教科書		新家庭総合（教育図書）
指 導 者		中村 美穂

1 題材 子どもとともに

2 題材設定の理由

子どもは、意識する・しないにかかわらず、さまざまな人やものと出会い、関わりながら成長していく。つまり「関係的存在」である。親をはじめ、周りの環境は乳幼児の心や体の発達に大きな影響を与える。しかし、近年は不況による経済の悪化や子育ての孤立化など、育児に不安をもつ母親も多く、育児放棄や児童虐待、ドメスティック・バイオレンスなどの問題も深刻になっている。また、夜更かしや朝食抜きなど、夜型の生活に傾き、生活習慣が崩れて体に不調を訴える子どももいる。さらに、子どもが安全に遊べる場所も近年少なくなり、低年齢からのインターネットやゲームの影響も問題視されている。このように、子どもを取り巻く環境は不安が多いのが現状である。

本校は、年の離れたきょうだいや親戚が多いせいか、さまざまな年代の人たちと関わり、子どもに慣れている生徒が比較的多いようだ。また、小さな子どもに優しく声をかけたり、遊んだりすることもできる。授業で、保育人形を持たせると、「早く自分の子どもが欲しい」という生徒もいる。その一方で、子どもにほとんど関わりのない生徒もいる。

このような中で、妊娠や出産について知り、子どもの発達・発育について特徴を学び、それぞれの発達段階を理解することは、人の一生を考える上で重要なことと考える。また、子どもの生活と遊びについて考えたり、遊びの意義を知ることは、子どもを理解し、自分を見つめることにもつながる。

出産のビデオを見て、「ぜひ、立ち会い出産をしたい」と感想を書してくれた男子生徒が何人もいた。生徒たちには、将来子どもを温かい目で見つめ、育てていける大人になってほしい。自分自身を見つめ、「子どもの存在」を大切に考えられるように、課題を与えて考えさせたり、実習を通して関心を持たせたいと考える。

3 指導計画

子どもとともに（22 時間）

- （1）保育について考えよう …… 4 時間
- （2）子どものすこやかな育ちを知ろう …… 6 時間
- （3）子どものくらしと親のかかわり …… 8 時間
読み聞かせ実習…本時
- （4）子どもの福祉を考えよう …… 4 時間

4 生徒の実態

明るく、元気のあるコースである。教師の発問に対しても誰かが返答し、反応がよい。しかし、家

庭科の学習内容に興味・関心を持ち、学習意欲が高い生徒とそうでない生徒の差も目立つ。また、実習は楽しんで行うが、講義形式の授業になると集中力の続かない生徒もいる。保育の領域に対しては、女子は反応がよいが、男子が興味をあまり示さない事もある。できるだけ生徒たちの興味・関心をひきつけながら、授業や実習を展開しようと試みている。

5 本時の指導

(1) 主題 読み聞かせ実習・・・紙芝居の読み聞かせ

(2) 本時の目標

- ① 紙芝居の読み聞かせ実習を通して、読み方の技術を学ぶだけでなく、読み聞かせの子どもへの影響を実感する。
- ② 児童文化財について知り、遊びによる情操の発達と社会性の習得について理解する。

(3) 本時の指導計画（2時間続きの2限目）

段階	時間	学習内容	学習活動	指導上の留意点
導入	5分	- 本時の実習内容の確認 - 絵本(紙芝居)の読み方の注意点	- 本時の内容、活動の流れを確認する。 - 板書を見ながら確認。	- 班分けと絵本の確認。 - 順番の確認。 - 評価のポイント。 - 発表の仕方(礼、タイトル)
展開	40分	- 紙芝居の読み聞かせ - いっきゅうさん - どくのはいったかめ - こぶとりじいさん - ジャックとまめのき - 三匹のこぶた - かちかちやま - さるかにかっせん - したきりすずめ - ブレーメンのおんがくたい	- グループごとに前に出て、紙芝居の読み聞かせをする。 - 評価をする。	- 聞く人を意識して読み聞かせをすることを伝える。 - 読み終えたら、机に紙芝居を置く。 - 静かに聞く。 - 評価をする。
まとめ	5分	- 感想の記入をする - 次時の学習内容の確認	- 実習の感想をプリントに記入する。 - 次時の学習内容を知る。	プリントを提出させる。

(4) 評価

- ① 聞く人を意識して、紙芝居を読むことができたか。(技能・表現)
- ② 楽しみながら、役になりきって読み聞かせ出来たか。(技能・表現)
- ③ 静かに集中して聞き、評価・感想を書けたか。(知識・理解)

(5) 評価の方法

- ・実習への参加状況
- ・実習の記録の記入状況、記入内容（実習後、提出）

